

多摩川・浅川の生態系から考察する 高校生と地域社会が理想とする河川とは

岩崎愛奈, 官福結香, 城取秀斗, 龍野真那, 西尾優希, 西原弘和, 綿貫葵, 赤堀温貴, 石井透哉, 大柿新, 齊田誠, 塚田快音, 松尾知佳

東京都立八王子東高等学校

●目的

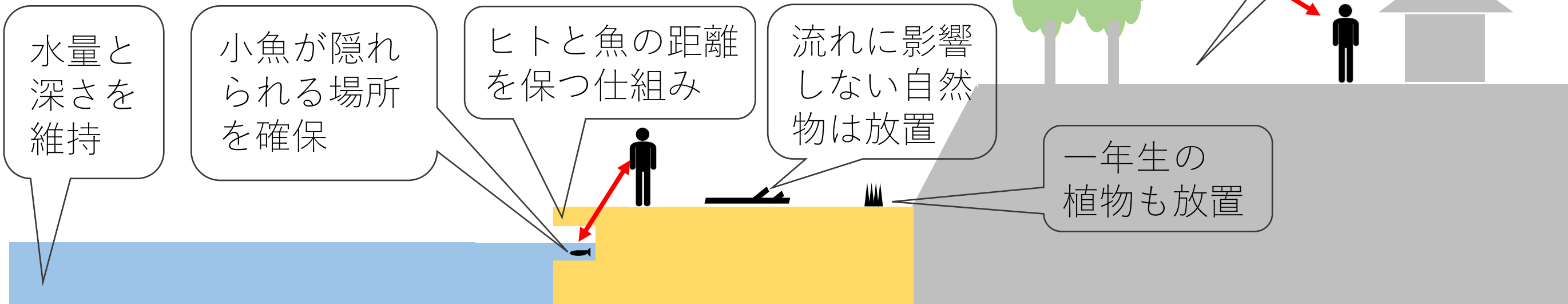
2020年、これまであまり意識されていなかった多摩川・浅川が、台風第19号をきっかけに、人々の生活に関わるものであることが人々に認識されたことをレポートした。

2021年は、フィールドワークを通して多摩川・浅川がどのように変化したか、そこから、私たちの考える自然の川とは何かを考察していった。

今年は、これまでの内容とあらたなフィールドワークを通して、「地域社会の人々が理想とする多摩川」について考察を行った。

●私たちが理想とする多摩川・浅川

- ・ヒトの生活に密着しつつ生物の多様性を担保する
 - ⇒樹木は河川内ではなく河川の周囲に配置
 - ⇒小魚や稚魚が隠れることができる工夫
- ・水害を抑えることができる
 - ⇒経済的観点から、放置できる流木等は放置



●地域社会の人々が理想とする多摩川・浅川

<インタビュー>

多摩川漁業協同組合日野支部の皆さんにインタビューする機会をいただいた。



Q 漁業組合はどのような取り組みをされているのですか？

A 環境保護・在来種保護活動を行っている。具体的にはアユの放流と調査や漁業管理を行っている。また、地域の人々への多摩川について知ってもらう活動も行って、河川敷の公衆トイレなどは組合の働きかけによるもの。

Q 皆さんにとっての多摩川とは？

A 昔から生活の一部。子どもだけで遊ぶことも多く、高度経済成長期の前はお風呂替わりに入っていたこともあった。それだけ身近な存在。

Q 近年の人々に願うことは？

A 多摩川はだいぶ綺麗になってきている。魚や動物の多様性ももどりつつあり、水質も人が入れるほど。「河=汚いもの・怖いもの」とは思わず、昔のように河に帰ってきて遊んで欲しい。そうすることで、河の大切さがわかってもらえる。

Q 河の改良工事などによって風景が変わっていくことについては？

A 人命と安全が何よりも大切。そのうえで地域社会が河と関わっていくことや、できることを考えていかなければならない。コンクリート化の影響がわからないが、前の台風では、外来種も含めて魚がほとんど海に流れていってしまった。

<伝統漁法投網体験とフィールドワーク>

投網の指導をいただき、多摩川（日野橋周囲）で魚類の捕獲調査を行った。



●投網フィールドワークの結果

アユ、オイカワ、カワムツが捕獲できた。**ムギツクは関西地方の在来種**であり、本来は多摩川に生息していない種である。



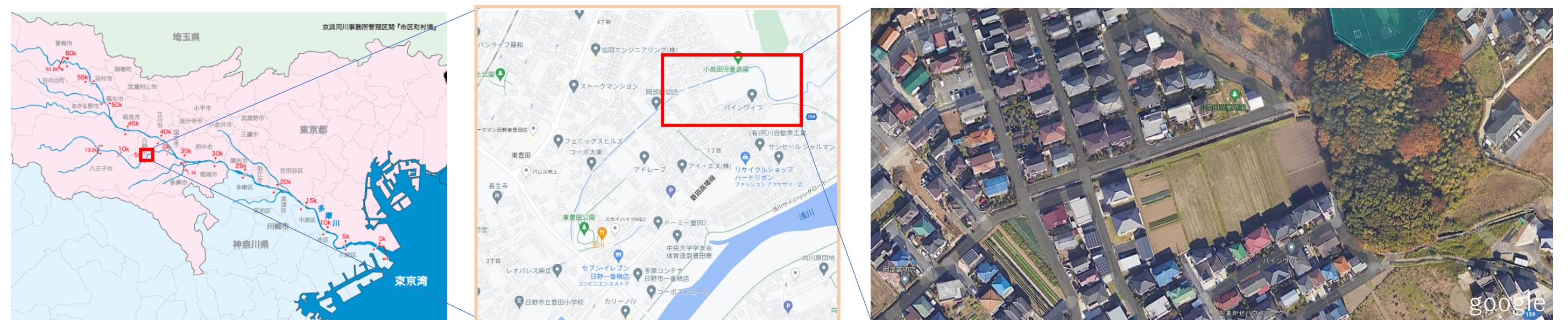
●実態の考察

- ・他地方の在来種（ムギツク）の存在
 - ⇒養殖アユの稚魚に紛れている
 - ⇒多摩川・浅川の生態系にどれだけの影響があるのかを調査する必要あり
- ・外来種（コクチバス）の存在
 - ⇒漁業組合や地域の人々から、多摩川・浅川での目撃情報あり
 - ⇒コクチバスは流れのある場所でも生育できるため影響力が大きい
- ・小魚や稚魚の保護
 - ⇒捕食者から隠れられたり、台風等の増水時に流されない場所が必要

→多摩川・浅川の生態系には農業用水路が大きく関係？

●用水路フィールドワーク（8/1, 8/19, 10/24）

浅川支流の農業用水路で年3回のフィールドワーク（ガサガサ）を行った。



- 古く豊田の地域の農業に利用されていた水路であるが、現在は住宅街内にあり、農業用には一部でのみ使用されている。多くの人々の生活に利用されているわけではない。
- 森の方向に迂回させるなど、自然公園として位置づけられている。

●実態の考察

- ・ヨシノボリの繁殖が確認された
 - ⇒水質は魚類が生活できるほど綺麗
 - ⇒ヨシなどの水生植物ではなく、セキショウモやカナダモに隠れて生息している
 - ⇒産卵に必要な、適度の砂が水底にある
- ・コクチバスの稚魚は確認できなかった
 - ⇒農業用水路とは別のところで生息？
 - ⇒多摩川の水流が弱いところでの目撃情報あり
 - ⇒用水路が外来種の繁殖場所になりにくい？
- ・セキショウモの栽培活動が行われている
 - ⇒実際にはあまり生着していない
 - ⇒カナダモと比較検討する必要あり
- ・地域の人々が声をかけてくれることが多い
 - ⇒農業用水路のある風景は人々の生活の一部
 - ⇒自然公園が好きな人が多い



日野市の事業として希少植物「セキショウモ」が保護され、カナダモは除去されている。

→生活に深く関わらない用水路でも、その存在する風景が「人」と「生き物」と「河」の関わりを支えることもありうる

●高校生の視点で考える地域社会が理想とする多摩川

フィールドワークを通して多摩川・浅川は、水質の改善が進みつつあることや、在来生物の多様性ももどりつつあることがわかった。それだけでなく、地域の人々は多摩川・浅川のことを好きであり、本来あるべき自然のままの風景を継続していきたいと願っていることもわかった。

今後の活動の目標として、次は人々と河をどうつなげるのかを考察していきたい。具体的には、フィールドワーク中にも訪れた東豊田公園のように、用水路の水と人々が触れ合うことができるしくみが必要である。観光資源としての活用の検討や、希少植物の保護活動などへの参加も通しても、多摩川・浅川について探究していきたい。

